

全酪連会報 10

2022 OCT No.685

若手後継者の本音／
福原 美江さん

酪農部だより／
「日本初?!乳製品自動販売機」の設置から
1年半が経過しました

「酪農危機を突破するための
全国酪農民緊急特別集会」
開催される

日本酪農見て歩紀／
(有)ドリームファーム
(栃木県大田原市)

酪農トピックス／
全国農協乳業協会
「令和4年度営業向け研修会」
の開催 (酪農部) ほか

人事異動

酪政連活動報告

第50回 全国酪農青年女性酪農発表大会
の動画を **YouTube配信**しています!
➡ <https://youtu.be/bm7ltnp8sfs>



全国酪農業協同組合連合会



ZE
N
P
R
A
K
U
R
E
N

地域概要

北広島町は広島県の西北部、西中国山地の標高300～800mの盆地高原に位置しており、北は島根県と接しています。古くから山陽と山陰を結ぶ中継地点として栄え、神楽や田楽などの民俗芸能や、ブナの森・湿原・動植物などの雄大な自然が広がる、自然と田園文化が息づく町です。（北広島町HPより抜粋）

牧場の沿革・就農までの経緯

福原牧場の酪農経営は、祖父の時代に現在の広島市内で始められました。しかし、広島市の発展に伴って急激な人口増加と都市化が進むなかで、同地での酪農経営の継続が困難との経営判断をされ、約50年前に酪農地帯であった北広島町への移転を行われて今日の福原牧場に至っています。

移転後に父（井手端始さん）へと酪農経営を継承され、1996年には木造2階建て牛舎が火災に遭つという不運もありましたが、酪農経営再開



▲ 福原さんご夫婦

今回は、広島県北広島町 福原牧場の後継者 福原 美江さんにお話を伺いました。

のため現在の鉄骨牛舎を建築され、自給粗飼料の生産や良質乳出荷と、県内でも模範となる家族経営を営まれて来ました。

美江さんは兄と弟のいる3人きょうだいで、継承直前まで酪農を継ぐとは思っておらず、医療関係の仕事に従事していました。就職してからは実家を出て、整備士の夫（福原務さん）と息子の3人で暮らしていましたが、9年前に父から「酪農を辞めようか悩んでいる」と美江さんや兄に相談がありました。兄が酪農を継がない中、家族がいる美江さんは悩んだそうです。夫に相談したところ、退職して酪農を継ぐことに快く賛同してくれ、2人で新規就農者として酪農を始めることになりました。

2014年の秋に実家に戻り、父に教わりながら酪農を始めました。わからないことだらけの美江さんご夫婦でしたが、父の意向により翌2015年の1月には経営移譲されたそうです。就農してから牛や経営について学び始め、四苦八苦しながら経営を続けて今に至ります。

現在は美江さんが飼養管理、夫が授精師の資格を取得して繁殖管理、弟（井手端真弘さん）が哺乳と堆肥製造を主にしながら、3人で日々の作業を行っ



▲ 福原牧場全体

ています。牧草の作業がある繁忙期には父・母・兄にも手伝っていただきながら、厳しい情勢下でも力を合わせて福原牧場を運営しています。

酪農経営のこだわり

福原牧場には、先々代から受け継いできた「こだわり」があり、毎日の午前中の作業終わりに全頭のブラッシングと牛体の洗浄を行われています。搾乳牛約40頭に要する時間は、ご夫婦で作業を行っても1時間程かかってしまいますが、毎日1頭1頭と向き合うことで、牛の表情・発情・体温など体調の微細な変化が分かるそうです。牛体と牛床も綺麗になるため、乳房炎の発生予防にも繋がります。発情の見逃しも起こらないため、福原牧場の繁殖成績は空胎日数112日・分娩間隔391日と、いつでも優秀です。

就農してからの取り組み

美江さんが牧場を継いでから、新たに乳房炎対策に取り組みされました。5年前に黄色ブドウ球菌（以下SA表記）による乳房炎が急増したことを受け、日々の作業の見直しを行われました。それまでは日々の作業に手いっぱい、父のやり方をそのまま受け継いでいましたが、この時をきっかけに勉強会等に積極的に参加するようになったそうです。SAについて学ぶところからスタートし、布タオルをペーパータオルに変える・後搾り



▲ ブラッシングを行う美江さん



▲ 落ち着いた状態の牛達



▲ 学生団体の牧場見学



▲ 草刈り作業風景

美江さんは広島の西部地域の酪農女性で構成する「西部ミルク会」で活動され、夫の務さんは同地域の「北広島町酪農団体連絡協議会」の会長職を務めており、地域の酪農家とのつながりを大切に考えて行動されています。

また2017年に「酪農教育ファーム」の牧場認証を取得され、消費者の見学を積極的に受け入れています。昨年も企業と大学生のイベントなどの受け入れを通して、様々な体験の機会を提供されました。

若手後継者の本音

Vol.59

[経営概況]

所 属 広島県酪農協同組合(温泉川寛明代表理事組合長)

家族構成 (本人)福原 美江さん(46)、(夫)福原 務さん(46)、

(弟)井手端 真弘さん(42)、(父・前経営者)井手端 始さん、(母・兄・息子)

飼養頭数 45頭、育成牛:25頭

自作地 10ha、イタリアン・ミレット

パートナーと力を合わせて

をやめる・乳房炎対策ワクチンの接種を始めるなど、学んだことを実践しながら作業工程一つずつに修正を加えられました。作業以外にも、毎月のバルク乳検査と牛群検定を始めて、どの牛の体細胞が高いか・どんな菌がいるのかを定期的に確認することにより、予防だけでなく、早期に適切な治療を行えるようになりました。「前職でSAの危険性を実感していたからこそ、徹底的な対策を行えた。牛も乳房炎になると痛くてしんどいと思うので、出ないようにはあげたい」と仰っており、近年は常に体細胞数や細菌数が基準値以下の良質乳成績を保たれています。広酪が毎年行う「良質乳出荷者表彰」の受賞もされており、先代から合わせて18回と県内最多になりました。

地域・周囲とのつながり

将来

さらに自身の草地を整備する傍らで、地域内で高齢により水田を管理できなくなった方々からの依頼を受けて、水田転作制度を活用した粗飼料の栽培・収穫や、あぜ草の刈り取り、堆肥散布などの作業を請け負っておられます。中山間地域のため作付面積が増えるほど作業が大変になります。「地域との関わりを大事にしたいからなるべく断りたくない。酪農への理解を得るためにも助け合いが大切だと思う。」との考えからご家族で作業に取り組んでいます。

次の目標は、草地の化成肥料をゼロにすることだそうです。堆肥のみで賄うために、現在は堆肥の質の向上に取り組んでいます。

また「仕事だけでなく趣味も楽しみたい」と仰っていました。前職でも酪農を継いでからも仕事に追われて忙しく、趣味や旅行にける時間がなかったため、若くて元気なうちに夫婦でキャンプなどをしてみたいそうです。そのために今今の厳しい情勢の中で踏ん張って、次の代に繋げられるように頑張りたいとの思いを伺いました。(N・F)



全国の若手後継者の皆さんへ一言!

家業を継ぐのなら夫婦で...という両親の言葉があって、主人と弟の3人での家族経営を守っています。お互いをカバーできるって最強です!出来るなら信頼できるパートナーと酪農に従事することを私はオススメします。



「日本初?! 乳製品自動販売機」の 設置から1年半が経過しました

コロナ禍において、対面せずともボタンを押せば選んだ商品が手軽に買える自動販売機の需要が増すなか、各地で変わり種の自販機が登場するなど密かなブームが起りました。全酪連においても本所の所在地である渋谷区代々木の酪農会館前に「日本初?! 乳製品自動販売機」を設置し、この8月で1年半が経過、累計での売上金額は500万円を達成しました。

新たな酪農会館に移転した2019年2月当時より、リニューアルされたばかりの酪農会館を拠点とした日本の酪農のPR、この会館に集結した酪農関係団体同士のより一層の深い連携、そして何よりコロナ禍での牛乳・乳製品の外食・業務用を中心とした需要の回復喚起等を目的として、直売店舗のようなものを立ち上げられないかという機運が高まりました。

このミッションを与えられた酪農部乳食品課、営業・物流担当職員において検討が開始されましたが、コロナ禍での対面販売のリスクはもちろん、会館の改装費や人員確保、そして営業許可手続きなど直売店舗の開設には様々な高いハードルがあることが判明し、ミッションが暗礁に乗り上げたところ、M課長の突然のヒラ

メキによって自動販売機を検討することになったのです。

調査検討の結果、これまでは販売できる商品が限られていた自動販売機にも、最新機種には「さまざまな商品形状」に対応しつつ屋外対応も可能なものが登場していること、機体自体は牛乳・乳製品を安全に販売できるものであること等が確認されたため、ラッピングや設置にかかる工事費用などの導入費用や電気代等のランニングコストと、それに見合う収益を継続的に上げるための方策を検討することとしました。

設置を予定する酪農会館入口は、新宿駅の隣駅である代々木駅から徒歩2分の好立地ですが、道を挟んでコンビニエンスストアがあり、近隣にはオフィスや専門学校などに通う

方向けのファストフードや飲食店が並んでおり、要冷蔵品である家庭用乳製品が販売されたらどのような方が購入されるか採算性が見通しにくいところでしたが、近隣には集合住宅なども少なからず建ち並んでもいることも含め、前述の牛乳乳製品や日本の酪農のPRという目的からも、トライする価値があるとの判断に至りました。

設置に先立ち、まず酪農会館のオーナーである（一社）全国酪農協会にご説明にあがったところ、設置を快く許可して頂いたのはもちろん、「日本の酪農のためになるならば全面的な協力を」という力強いお言葉を頂くことが出来ました。

そして、設置・販売計画ならびに販売品や機





▲ 砂金前会長による除幕式(令和3年2月22日)(写真提供:株式会社酪農乳業速報)

体にかかる管理規則などの整備、現金取扱いに伴う関連部署との調整などの内部手続き、渋谷区保健所への乳類販売業の営業許可手続きを経て、2021年2月22日、ラッピング加工した機体がついに酪農会館に納品され、華々しいオープニングセレモニーとともに営業が開始されました。

設置当初から現在まで、通行する多くの人が足を止め自動販売機を覗き込む姿がみられ、全国各地の会員農協乳業が販売しているカ

フェオレを集めた“春のカフェオレ祭り”などの期間限定企画も好評を博しました。また、都内では珍しい全国のご当地牛乳や乳製品が手軽に手に入ることで、口コミやSNSで徐々に拡散され、TVや雑誌などのマスコミでも取り上げられるなど、想定を大幅に上回る反響がありました。

そして多様な商品を取り扱うことで仕入取引を開始した会員農協プラントとの新たな関係や、乳製品直売会“らくのうマルシェ”などのイベントを通じ、ご購入いただく近隣住民との繋がりがなど、自販機設置をきっかけにここ1年半で様々なものが生まれています。

当初、牛乳・乳製品等を酪農会館で販売することで、本会事業を広く認知して頂き全酪ブランドの価値向上を図るという目的がありました。が、実際に取り組んでみると、それ以上のものがあつたのではないかと考えております。

今後は、更に多くの商品を取扱いながら会員農協プラントとの連携を深めることはもちろん、より多くの皆さんに全国の牛乳・乳製品おいしさを知ってもらうことで、この自販機を会員酪農協と地域住民を結ぶ懸け橋としていけるよう取り組んでまいります。

もしこれを読んで頂いた皆さまのなかで、導入を検討されている方がいらしたら、少ないながらも試行錯誤を続けながら我々が得たノウハウなどをお伝え出来るかと考えておりますので、お気軽にお声がけください。



▲ 第1回 らくのうマルシェ (令和3年11月13日(土)開催)

「酪農危機を突破するための 全国酪農民緊急特別集会」 開催される



日本酪農政治連盟は、令和4年9月7日に自由民主党本部（東京都千代田区）において、昨今の生産資材価格の高騰に対する迅速な支援・対策を訴える『酪農危機を突破するための全国酪農民緊急特別集会』を開催しました。新型コロナウイルス感染症防止の観点から参加者を制限しつつも、全国から約200人の酪農家が集結しました。

日本酪農政治連盟によるこのような全国集会は、平成30年の総決起大会以来です。今回は、コロナ禍に伴う需要の減少などによる乳製品の過剰在庫や、生産資材価格の高騰による生産コストの上昇を受け、日本酪政連は自由民主党酪政会所属の衆・参両院議員約65名を来賓として招き、生乳生産を継続するための緊急支援を訴えました。

兆しが全く見えない。政府には様々な対策を講じていただいたが、その後すべてのコストが高くなっている。と早急な更なる支援を求めました。続いて、各地域代表の4名が、参加した議員らに生産現場の厳しい現状について訴えました。



▲ 中村俊介さん

冒頭、日本酪政連の佐藤哲委員長は、『64年間酪農をやってきた中で、これだけ厳しい年は初めてだ。今までは、半年や1年我慢すれば何とかだったものだったが、今回は改善の



▲ 佐藤哲委員長

始めに、今年の7月に全国酪農青年女性会議委員長に就任した中村俊介さん（熊本県）より、『何度も自然災害や生産調整といった苦難を乗り越えてきたが、今回の危機は自助努力の範囲を超えておりどうする事も出来ない状況。ほとんどの酪農家は毎月赤字が膨らみ、資産を切り崩して生活しているのが現状で、このままでは年末まで持たないと言う多くの声を聞く。特に将来の酪農に展望を抱いていたはずの後継者も、これから先、経営を続けて行けるかどうか不安にかられており、全国の酪

農家も同じ窮地に立たされていると実感している。飼料価格の高騰が続いており、生産費を考えると到底10円の上げ幅では賄うことができない。九州の酪農家は少しでも多くの良質な自給飼料を作ろうと増産に取り組んだり、乳価値上げに伴う消費減退を抑えられるよう消費者への理解醸成活動や消費拡大運動も積極的

給飼料増産など足腰の強い経営の実現へ息子と二人三脚で取り組んできた。現在、国際情勢の変化による燃料高騰や配合飼料・粗飼料の価格上昇といったこれまで経験がないほどの経営環境の悪化である。このまま飼料価格の高止まりが続けば酪農家の離農は進み、生産基盤の弱体化はもちろん地域の衰退にもつながる。このような事態を避けるため、全国の後継者たちが情熱と誇りを持って将来にわたって経営を続け、牛乳・乳製品の安定供給に貢献できるような持続可能な酪農業が実現するよう特段の措置を講じてほしい。かつての「都府県酪農緊急経営強化支援交付金事業」のような交付金事業の創出と、農家の実質負担額を軽減できるように「配合飼料価格安定制度の見直し」、牛乳乳製品の過剰在庫の減少対策を含めて今後の牛乳小売価格の値上げに備えた消費拡大対策をお願いしたい。』と訴えました。



▲ 古川真由美さん

更に吉田英子さん（埼玉県）からは、『私の牧場は山間地で広い草地があるわけではなく、購入飼料に頼らざるを得ない。私は自給飼料という表現に違和感を持っている。なぜ餌は自分で作らなければいけないのかと疑問に思っている。国内で輸入乾牧草の品質のものを作っていただけなのであれば、それを購入したい。国としては自給飼料100%を掲げているのは承知しているが、やらないのではなく、できない地域もあることをご理解いただきたい。牧草を作ることが難しい地域の酪農家は、地の利を生かした方法を模索しながら牛の健康を維持するために効率の良い方法を選択して生産活動をしている。守るべき農家を選別するような方法ではなく、牛1頭1頭を守るという趣旨で、飼養頭数に応じた支援ができないか。今、酪農家を選別するようなことをして減少させることは、国として食料確保の面から危険なことだと思う。私たちはこれから



▲ 吉田英子さん

も、安心安全な牛乳を、安心して生産していける状況になることを強く望む。』と訴えました。

最後に柴田瑞穂さん（秋田県）は、『高校生の娘が、将来跡を継ごうと大学進学を予定している。後継者がいることは心強く、次の代に繋ぐことができることは本来ならばとても喜ばしいことだが、このような状況だと喜べる状況ではない。コロナ以前は、酪農に携わる仲間を増やそうと全国の高校へ出向き、酪農の仕事ややりがいの説明し、大変なことがたくさんあっても頑張れば頑張っただけ自分に返ってくる仕事だと話して歩いた。しかし、この状況では興味を持ってくれた学生たちには会わせる顔がない。乳量を増やしてもそれを上回る飼料代。良質な自給飼料を作ろうとしても、高くて手の届かなくなつた肥料。打ち出された補助事業も増頭がルールになっており膨らむ借金。1.5倍に値上がりした代用乳を子牛に与えても、娘に「その小



▲ 柴田瑞穂さん

柄な子牛は、市場では1,000円だよ」と言われ、やりきれない思いをした。もう一度、やりがいがあり誇れる日本の酪農になるように力を貸してほしい。』と訴えました。

4名の訴えを受け、自民党酪政会の森英介会長（衆・千葉11区）は、『今日、多くの生産者がここに参集したことは酪農家の危機感の表れにとらえて、牛乳乳製品が自給できなくなることは食料安全保障の観点から大変なこと。日本も自給率をあげ、備蓄を確保することが課題であり、その中で酪農家の皆様の役割は大きい。皆様が廃業することの無いよう、これからの酪農を担う若い世代の方々が意欲をもって酪農に取り組むことができるようにすることが私たちの責務であり、皆様の要請をしっかりと受け止め力を合わせて協力をしていきたい』と述べました。

集会の最後には、『購入粗飼料価格の高騰を受ける酪農経営に対する支援』、『配合飼料価格安定基金制度の適切な運用と価格の高止まりに対する支援』、『上昇している化学肥料の価格に対する適切な対応』を求める緊急特別要請書を満場一致で採択し終了しました。

日本酪農 見て歩 紀

No. 352

(有)ドリームファーム
栃木県大田原市

牛にも人にも
優しい酪農経営を目指して

地域の紹介

今回ご訪問させて頂いた(有)ドリームファームがある栃木県大田原市は、栃木県の北東部に位置しており、総人口は71,198人(2022年9月1日時点)となっております。大田原市の中西部は、日本でも有数の鮎の漁獲量を誇る清流「那珂川」と箆川に囲まれた、那須五峰から広がる那須野が原の扇状地にあたり、東部は八溝山系の美しい山並が連なります。大田原市は元々明治4年、廃藩置県によって誕生した「大田原県」でした。のちに「栃木県」に統合されると、県の支庁や中央官庁の出先機関が置かれ、明治22年に「大田原町」となりました。その後昭和29年12月、大田原町、金田村、親園村が合併して「大田原市」になりました。以後、野崎村との分割合併や西那須野町の一部編入を経て、昭和



▲ 牛舎外観

30年11月、佐久山町との合併により、平成の大合併を迎えるまでの大田原市となりました。

▲ 左から従業員の相馬雅さん、泰弘さん、学生アルバイトの佐藤哲哉さん、ツトウさん

栃木県大田原市



▲牛舎内の写真

(有)ドリームファームの概況

家族構成は祖父母の誼合政義さんと愛子さん、父のツトウさんと経営主の泰弘さんと妻の由佳さんとお子さんの泰地君がいっぱいいます。(有)ドリームファームの経営主である泰弘さんが所属している栃木県酪農業協同組合は酪農家戸数167戸、生乳出荷数量71,392t(令和3年度)となっています。

ます。牛舎は自宅から約1.2km離れた所に位置しており、泰弘さんお気に入りの栃木県内で初めて供用開始となったラウンドアバウト(環状交差点)を通って向かいます。11・5町歩の畑を所有しており3町歩はデントコーンとイタリアン、2町歩はデントコーンとエン麦、3町歩はイタリアン1作、残りの3・5町歩は食用米を作付けしています。また、10年程前から複数の近隣農家との交流を行っており合計6町歩の畑に植えられたWCSを堆肥と交換しています。また、近隣農家が畑を使わない間は畑を借りてエン麦をつくりコスト削減を図っています。

(有)ドリームファームの歴史

誼合さんの牧場の歴史は戦後、泰弘さんの曾祖父から始まりました。当初は自宅横につなぎ牛舎を建てて酪農をしていました。しかし、昭和55年に増築による規模拡大により自宅横での飼育が厳しくなり現在の場所に至りました。その後も増築を繰り返しながら平成9年に法人化と共に社名を夢にある牧場にしようという意味を込めて(有)ドリームファーム

に変更し平成10年に現在の規模の牛舎になりました。泰弘さんは自分が経営者になってもっとこの牧場を大きく発展させるといふ思いで平成19年に就農し、平成29年に経営主となりました。

飼養状況

現在従業員を1名、牧場近くの大學生のアルバイト3名を雇用し(有)ドリームファームの大きな戦力となってくれています。担当はアルバイト生が餌やり、畑作業は泰弘さんとツトウさん、哺育はツトウさん、繁殖管理は泰弘さん、その他の飼養管理を泰弘さん、ツトウさん、従業員で担当しています。飼養総頭数は108頭(預託9頭込み)であり、うち経産牛62頭、育成43頭、哺育3頭となっています。また、経産牛は最大71頭飼育可能な4列のつなぎ牛舎での飼育ですが泰弘さんのお父様であるツトウさんの代から運動不足やストレス解消目的に2日に1度、運動場(フリーバーン)へ移動させています。搾乳牛飼養内容について朝はイタリアンサイレージ・デントコーンサイレージ・配合飼料、夕方はオーツヘイ・デント



▲ユーモーション

コーンサイレージ・配合飼料となっています。また、イタリアンサイレージの給与は9～1月までであり、2～8月はエン麦サイレージを給与しています。

ストレスのない繁殖管理を目指して

現在泰弘さんは繁殖管理に一番力をいれています。これまでは発情発見が遅れたり分娩後の初乳を飲ませるタイミングが遅くなったりと繁殖管理に難しさを感じていました。また、分娩前の牛に気をかけ夜中でも牛舎へ確認しなければならなかった



▲ 分娩センサー

ことから体への負担を感じていました。そこで発情発見、反芻時間や採食時間を把握するため2021年4月に牛の行動モニタリングシステムのユーモーションを導入しました。ユーモーション導入後は発情発見率が高くなっただけでなく、発情をより気にするようになり、繁殖管理に対する関心が高まったそうです。また、発情の発見後はツトウさんの勧めで平成19年に取得した人工授精師の資格を生かして泰弘さん自身で授精を行っているそうです。また、月に2回、3回獣医師を呼び受胎しな

い牛や発情が来ない牛を診察し繁殖管理を徹底しています。さらに労働負担の軽減や分娩事故を減らすため2021年12月に分娩センサーを導入しました。分娩センサーの導入によって分娩前になるとスマートフォンのお知らせが通知され、牛舎内に設置してある360度見渡せる3台のカメラにより分娩状況を自宅からでも確認できるようになりました。ユーモーションや分娩センサーを生かして、年間20頭のホルメス分娩を



▲ 搾乳牛の運動場(フリーバーン)

目指し牛の頭数が減らないように心掛けています。

(有)ドリームファームの今後についての目標や展開

泰弘さんはドリームファームの経営理念である牛にできるだけストレスを与えない気を遣う経営を目指しています。また、71頭の飼育スペースに対して62頭の飼育であることからユーモーションや分娩センサーを生かして71頭飼育を目標にしつつ分娩事故を0にしたいそうです。乳質に関しても目標体細胞数を通年10万台にするために自給粗飼料の品質安定を目指しているそうです。将来は由佳さんの生まれ故郷である沖縄で酪農経営を行い、子ども達の学校給食を守りたいとひそかに考えています。

最後に

まず、この原稿を作成するにあたり、(有)ドリームファームの歴史や経営方針など丁寧にお話しして頂き、大変感謝しております。今回は、経営主である泰弘さんに主に取材させていただきましたが、牛にできるだけストレスを与えない気を遣う経営

をするだけでなく従業員や大学生のアルバイト生の方々にとって働きやすい環境にしていこうという熱い思いを語ってくださいました。また、お子さんの泰地君にとって憧れのお父さんになるために日々の生活を送っているそうです。(有)ドリームファームの今後の益々のご発展と地域の酪農業界を大いに盛り上げていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



▲ 4列の内の一列をフリーバーンに移す

酪農部
発全国農協乳業協会
「令和4年度営業向け研修会」の開催

酪農部が事務局を担っている全国農協乳業協会（会長：大久保克美 東毛酪農業協同組合 代表理事組合長）において、令和4年9月7日に15事業者23名の参加をえて、オンライン研修会を開催いたしました。

本研修会は、中堅営業職員に向けて人材研修の提供が難しいという会員の声にこたえ、後輩育成やコミュニケーションについて、（公財）日本生産性本部の講師を招聘しオンライン形式で昨年度より開催しております。

研修は、「理想の職場づくりと部下の育成」と題し、講師からの講義だけでなく多くの動画や写真等の事例を交えながらグループディスカッションを中心に進められました。冒頭は現在所属している組織の風土がどのようなものなのか、その中でどのような組織になることが「理想の職場」なのか、リーダーシップの在り

方について動画教材を用いて、意見を出し合いました。その後、後輩育成の観点でどのような考え方が重要なのか、どのような声掛け接し方がいいのか、ロールプレイングを交えて学習していきました。

研修終了後の感想では、「直近で立場が変化した後のため、非常に役に立った」「チームメンバーとは、特に主体性を大事にすることを意識し、お互いが共感し感謝し合える関係を築いていけるように努めていきたい」「同業他社様の日常業務での悩み等が聞けて良い機会だった」との声もありました。改めて、このような研修を通じて会員企業間の人のつながりや業務への気づきを得られるのも、本協会の強みであると感じました。

これからも全国農協乳業協会は会員事業者の負託にこたえるべく、様々な情報の発信や研修会の開催など活動を行っていきたくと考えております。（A.Y）

この研修会は、（一社）Jミルク「国産牛乳乳製品高付加価値化事業」の助成を受けて運営いたしました。



▲ 受講風景

仙 台
支所発

「自由民主党東北酪政会総会・ 日本酪農政治連盟東北ブロック協議会研修会」 開催

令和4年9月7日(水)東京都千代田区平河町の「ホテルルポール麹町」において自由民主党東北酪政会総会が開催されました。当日は、東北酪政会の岩手県選出鈴木俊一会長（財務大臣）や福島県選出根本匠幹事長（衆議院予算委員長）他8名の会員議員本人出席と4名の代理出席がありました。また、農林水産省畜産



▲挨拶をする鈴木俊一会長

局から牛乳乳製品課の大熊規義課長、中坪康史課長補佐も出席されました。そして、日本酪農政治連盟東北ブロック協議会からは、柴田輝男会長（秋田県）をはじめ16名の出席でした。

最初に鈴木俊一会長から挨拶があり、物価高騰対策の中で、配合飼料の高騰対策が検討されていることや、緊急の酪農支援については、4月に遡って支援することが検討されていることなど話がありました。根本匠幹事長の挨拶の後、牛乳乳製品課の大熊課長から、乳製品の在庫状況など酪農を巡る情勢について報告がありました。

山形県選出鈴木憲和事務局長の進行で議事に入り、新しい副会長に秋田県選出金田勝年議員が会長より委嘱されたという報告がありました。副会長は他に青森県選出江渡聡徳議員、宮城県選出小野寺五典議員、山形県選出遠藤利明議員の3名です。続いて、日本酪政連東北ブロック協議会の各会員組織の代表より、東北の酪農の現状や課題・要望等について報

告がありました。配合飼料や輸入乾牧草の高騰、肥料や燃料などの高騰等々の現状の厳しさや、先が見通せない不安などが報告され、さらに8月に入ってからのもれ子やF1など子牛価格の大暴落が報告されて、酪農経営の危機、切迫した現状報告となりました。その後は意見交換の時間でしたが、出席議員から挨拶を兼ねて意見をいただく中で、多くの議員の方がまず緊急の直接的な支援と、中長期的視点に立った酪農政策の2本立ての支援の必要性を述べておられました。

当日は、自由民主党本部において日本酪農政治連盟主催の「酪農危機を突破するための全国酪農民緊急特別集会」が開催されましたが、集会と東北酪政会総会の間に空き時間があつたことから、東北酪政会事務局の力添えで、日本酪農政治連盟東北ブロック協議会研修会が、「酪農業に関連する施策について」と題して同じくホテルルポール麹町で開催されました。講師は農林水産省畜産局飼料課の冨澤宗高課長と農産局企画課の村松直課長補佐でした。研修内容は「水田活用直接支払交付金」と「国産飼料の生産、利用拡大」が主なテーマでした。最初に村松課長補佐より水田活用直接支払交付金の令和5年度変更内容等の説明があり、続けて冨澤課長より、令和5年度予算概算要求の概要について、国産飼料の生産、利用拡大を中心に説明がありました。日本酪政連酪政連東北ブロック協議会から18名の参加でしたが、非常に関心のある研修内容で、時間が足りなくなるくらいの熱心な研修・意見交換の場となりました。

(I.Y)



▲東北酪政会総会の様子

名古屋
支所発

「東海ブロック酪政連協議会 令和4年度臨時総会」開催

令和4年9月13日(火)全酪連名古屋支所大会議室(愛知県名古屋市)において「東海ブロック酪政連協議会 令和4年度臨時総会」が開催されました。

日本酪農政治連盟は、酪農生産者の利益を代表し、その経済的、社会的地位の向上を政治的に解決し、一党一派に偏せず、自主性をもって我国酪農の健全な発展を促進することを目的とし活動しています。また都道府県ごとに支部を置いており、東海ブロック酪政連協議会は岐阜県、愛知県、三重県、長野県の4県の会員構成で活動を行っております。

今般、東海ブロック酪農団体と生産者の利益を代表し、その政治力結集と事業の振興を図り、地域酪農民の経済的、社会的地位の向上を促進し地域内酪農産業の健全なる発展に寄与することを目的としています。

お互いに情報を共有し活動を支援することで、管

内会員および生産者との連携が一層強固になることを期待して、同協議会事務局を名古屋支所へ令和4年7月1日に移管しました。

今回の臨時総会は事務局移管後、朝日委員長(日本酪農政治連盟岐阜県支部)の退任を受けての役員改選を中心とした議案となりました。

臨時総会でのすべての議案は可決され無事、終了しました。

新委員長には清水清人氏(日本酪農政治連盟岐阜県支部、美濃酪農農業協同組合連合会 代表理事会長)が選出されました。

臨時総会終了後は引き続き日本酪農政治連盟坂本幹事長による講演を頂きました。

全酪連名古屋支所は新役員の下、東海ブロック酪政連協議会の益々の発展に寄与して参ります。(T.K)



▲ 臨時総会 全景



▲ 坂本幹事長 講演の様子



▲ 柳澤前副委員長 開会の挨拶



▲ 藤井新代表監事 新任の挨拶



▲ 朝日前委員長 挨拶

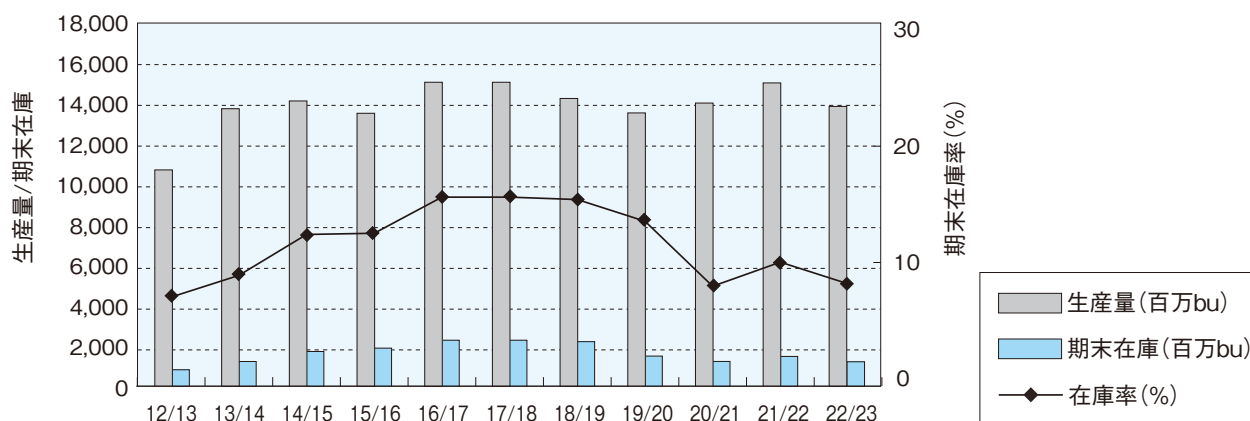


▲ 清水新委員長 新任の挨拶

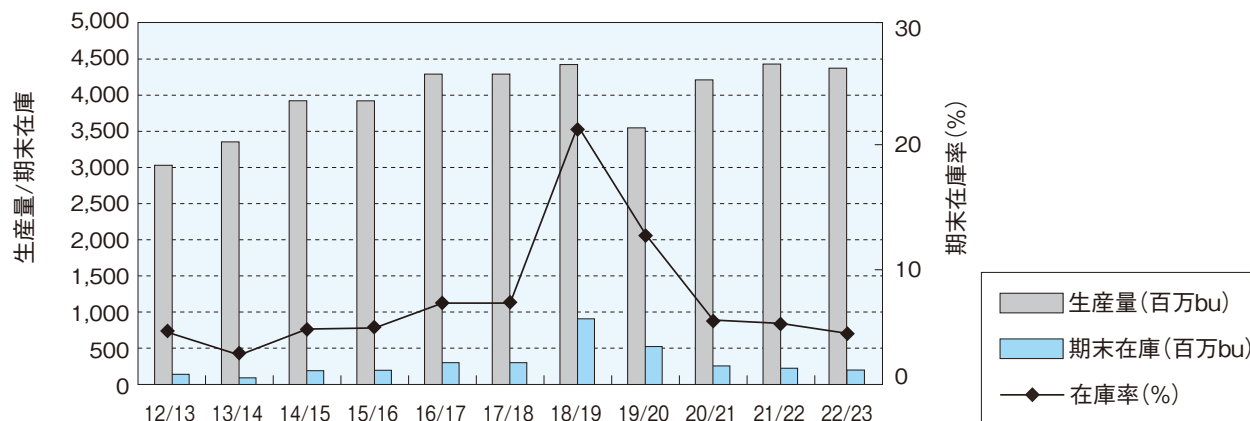


9月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想		21/22年産	22/23年産
	作付面積(百万エーカー)	93.4	88.6
	単 収(ブッシェル/エーカー)	177.0	172.5
	生 産 量(ブッシェル)	151億1,500万	139億4,400万
	需 要 量(ブッシェル)	148億5,000万	142億7,500万
	期末在庫(ブッシェル)	15億2,500万	12億1,900万
	在 庫 率	10.27%	8.54%
トウモロコシ 相場動向	シカゴ相場はUSDAの報告を受けて大きく上昇した。今後米国ではとうもろこしの収穫期に入るが、同時に台風シーズンに入るため今後の状況には注意したい。今回の米国とうもろこしの大幅な生産量減に加えて、欧州・中国での干ばつが問題視されており引き続き需給逼迫懸念があることから堅調に推移していく見込み。		
大豆粕相場動向	中国産は新型コロナ等の影響から発生が減少し輸出余力がなく、南米産は現地価格が高騰しており、また、円安の影響により、輸入大豆粕は価格競争力がない状況となっている。国産大豆粕は、菜種から大豆油へ搾油がシフトしていることもあり発生は増加しているものの、堅調なシカゴ大豆相場や円安により原料大豆価格は高止まりしており、また、輸入大豆粕からの置換え需要があることから、相場は堅調に推移している。		
糟糖類	【一般フスマ】 小麦粉生産量は7月の値上改定にともなう先取り需要の反動と、パン等小麦粉製品が主に値上げの影響で販売が振るわないこと等から急速に落ち込んでいる。ふすまは2期連続での値上げの改定となったものの、配合飼料使用割合の減少は限定的となると見込まれるため、年末に向け非常に逼迫する見通しとなっている。		
	【グルテンフィード】 秋以降のビール等の値上げを見越した仮需も着き、お盆明け以降、国内スターチメーカーの稼働は鈍化している。潤沢にあった中国産の在庫も10月積以降のオファーが取りづらい状況となっており、また、供給制限のあるふすまからの置換え需要があることから、年末年始に向け逼迫気味となる見通し。		
海上運賃	8月のフレート市況は、引き続き軟調に推移していたが9月に入り相場が反転している。要因としてはEUでのロシア炭禁輸が施工されてからEU向け石炭の輸入元が豪州、インドネシア等に切り替わり、その代替として中国やインドなどの石炭消費国がロシア炭の輸入を行うようになったことがきっかけでトンマイルが上昇したことが挙げられる。中国によるブラジル産コーンの輸入解禁の話が日々、具体化している中、中国勢による大量買付が現実となれば高騰する可能性があるため注意したい。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移

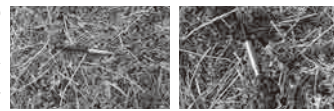




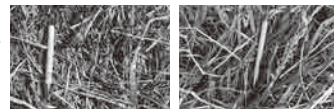
輸入粗飼料の情勢

令和4年9月

北米コンテナ船情勢	カナダのバンクーバー港では、鉄道貨車が停滞しコンテナがターミナル内を占拠しているため、荷役効率低下により沖合でのコンテナ本船の滞船数が増加しています。このため、船社によっては9月下旬から10月上旬にかけてPNW（シアトル・タコマ・バンクーバー港）発、日本向けの直行便3本船の抜港を発表しています。秋以降は例年、農作物の出荷や米国のクリスマス商戦、冬期の荒天の影響を受け船腹が逼迫しやすくなるため、今後も本船の動向には注視が必要です。海上運賃については夏場に入り、船腹の余剰感が出ていることから、各船会社運賃の見直しを行っていますが、現状の乾牧草相場を鑑みると、非常に軽微なインパクトとなっています。
ビートパルプ	【米国産】 22-23年産ビートは、生産の遅れが生じた一部の地域を除き、収穫と製糖作業が各地で開始されています。主産地のミシガン州では、生育期に理想的な天候に恵まれたため、例年以上の単収が見込まれていますが、他の地域では、播種作業の遅れを挽回できず、収量は芳しくないため、22-23年産のビートの総生産量は前年より減少する予想となっています。産地相場については、一時穀物相場が軟化したものの、産地では早魃により周辺地域の畜産生産者が粗飼料不足に直面しているうえ、同じく早魃に直面し、ロシアからの禁輸措置によりビートが不足しているヨーロッパからの引き合いが強く、新穀の大半が既に成約済となっていることから、産地相場は昨年比で大幅に値上がりしています。
アルファルファ	【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースンの南部では、収穫スケジュールの早い圃場で8月下旬より4番刈の収穫が開始されています。中部から北部にかけては、3番刈の収穫が終盤を迎えています。22年産は1番刈の収穫前に降雨が続く、例年に比べ収穫開始が大幅に遅れたことから、多くの圃場で4番刈の収穫を断念することが予想されています。このため産地では22年産における生産量は例年に比べ大幅に減少することが見込まれています。2番刈の作況については、収穫期に好天に恵まれたことで、色目の鮮やかな品質が多く発生したものの、夏場の収穫で気温が高かったことから、成分値は低く、過乾燥気味な中級品中心の発生となりました。 【オレゴン州】 同州南部クラマスフォールズでは2番刈の収穫作業が終了しており、一部の圃場で8月下旬から3番刈の収穫作業が開始されています。2番刈は収穫期に天候が不安定であったことから、30～40%程度で雨当たり品が発生しています。同州クリスマスバレーも2番刈の収穫期に降雨があったため、クラマスフォールズ同様30～40%程度で雨当たり品が発生しています。2番刈は収穫期において、夏季の気温上昇に伴い、成分値と品質が1番刈に比べ低下したことから、内需向け及び中国向けを主とする輸出向けの引き合いが落ち着きました。このため2番刈の産地相場は1番刈と比較し若干の軟化を見せましたが、それでも例年に比べ非常に高値で推移しています。一部輸出業者によると、近隣州の酪農家は、今後、秋に向かい気温が冷涼になるため、高成分が期待できる3番刈の収穫を待っており、3番刈以降再び産地相場が反発する可能性があるため、引き続き米国内需の動向を注視する必要があります。 【カリフォルニア州】 同州インペリアルバレーでは現在7番刈の収穫が行われています。産地ではモンスーンシーズンに入り高温多湿な気候となっており、成分値は低く、茎細でブリーチの目立つサマーヘイが多く発生しています。産地では取水制限のためすでに22年産アルファルファの生産を終了した圃場が散見されています。
	【米国産】 主産地であるワシントン州コロンビアベースンの南部では2番刈の収穫が開始されています。今後コロンビアベースン中部および、北部、エレンズバーグにおいても収穫作業が開始されます。22年産の1番刈は収穫期の天候に恵まれ中級品以上の発生が多くなったものの、産地相場は馬糧向けを主とする上級品の需要に牽引され中級品から下級品も21年産比で大きく値上がりしています。輸出業者によると、21年産からの繰り越し在庫が少なかったため、輸出業者は在庫を確保するため1番刈の多くは、生産者と輸出業者の間で契約されているようです。 【カナダ産】 主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区では、1番刈の収穫が終了し、2番刈の収穫が開始されています。1番刈は収穫期に天候に恵まれたことから、中級品から上級品中心の発生となっています。同州中部クレモナ地区では、7月に降雨が続いたため収穫の開始が遅れたものの、8月は天候に恵まれ、現在22年産の生産を終えています。単収は例年よりも多く、品質も中級品から上級品が中心となっており、下級品の発生は限定的となっています。
スーダングラス	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、22年産の収穫が終盤を迎えており、9月下旬には生産を終える見込みです。現在、産地では気温も高く、低級品から中級品の発生が中心となっていますが、産地周辺だけでなく、アリゾナ州など近隣州でも取水制限が設けられていることから、粗飼料が不足する国内の肥育生産者からの低級品を中心とする引き合いが強く、産地相場を底上げしています。また9月9日に強風を伴う降雨がありました。降雨量は30mm弱と報道されており、当時収穫作業中であったスーダングラスに降雨被害が出ています。需要が強い中で輸出向けの生産量に影響を及ぼす可能性があり、今後も産地相場には注視が必要です。カリフォルニア州北部デイクソン地区周辺では8月から本格化した1番刈の収穫は折り返しを迎えています。22年産は早魃の影響で農産物全体の作付けに影響を及ぼしており、スーダンの作付面積も前年比20～30%程度減少しています。作況は順調で、収穫期に天候に恵まれたため、これまでに収穫されたものは上級品から中級品が中心となっています。
クレイグラス	クレインは全酪連の登録商標です。 主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、3番刈の収穫が終了し、一部の圃場では4番刈の収穫作業が開始されています。3番刈の品質は収穫期における高温多湿の影響で茶葉やブリーチの混じったものが多く、また単収を増やすため適期を逃した硬めの茎が多い印象です。例年クレイグラスは5番刈まで生産されますが、22年産は取水制限の影響を受け4番刈で生産を終了する圃場も多く、生産量の減少が懸念されています。
バミュダ	主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、バミュダヘイの生産は現在3番刈の収穫が行なわれています。高温多湿の環境下、ブリーチが混じったものや、茎質のやや堅めな中級品の発生が中心となっています。
ストロー類	主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、22年産のストローの生産が終了しています。収穫期に一部降雨被害があったものの、概ね天候は安定していたことから、品質は例年並みとなっており、収量も生育期に適度な降雨があったことから十分なものと見込まれています。
オーツヘイ	【蒙州産】 8月は西蒙州、南蒙州、東蒙州と全蒙的に平年以上の降雨量が観測されました。西蒙州では8月最多の降水量を記録し、東蒙州でも例年の2倍以上の降雨量となりました。9月以降も雨の日が続く予報となっており、特に東蒙州では今後11月まで平年以上の降水量が見込まれています。22年産のオーツヘイは順調な生育となっています。潤沢な降水量があったことから単収は平年並み以上になることが見込まれています。今後の天候次第では、9月中旬からスケジュールの早い地域で収穫が開始される見込みです。



▲ 22年産2番刈オレゴン産アルファルファ 8月下旬撮影



▲ 22年産北カリフォルニア産スーダングラス 8月中旬撮影



▲ 左:西蒙州のオーツヘイ圃場 右:東蒙州のオーツヘイ圃場 共に8月撮影

今般の人事異動について、次のとおりお知らせします。

新	旧	氏 名
■令和4年10月1日付異動発令		
監査室長	東京支所長	荒 木 泰 將
東京支所長	東京支所 次長 兼 購買畜産課長	渡 邊 和 典
東京支所 購買畜産課長	東京支所 北関東事務所長	木 戸 康 成
東京支所 北関東事務所長	東京支所 購買畜産課長代理	加 藤 剛 士



日本酪農
政治連盟

酪政連活動報告

令和4年8月～9月

8/23

輸入粗飼料の価格高騰に対する支援を含む緊急特別要請を行う。
(於 衆議院・参議院議員会館)

8/24

自由民主党 総合農林政策調査会・農林部会・
農政推進協議会 合同会議
(於 自由民主党本部会議室)
・佐藤委員長が出席。
令和5年度予算概算要求について、
価格が高騰している輸入粗飼料や配合飼料、
肥料への対策を要請する。



▲ 概算要求における佐藤委員長の要請

9/7

三役会 (於 自由民主党本部会議室)
「酪農危機を突破するための全国酪農民緊急特別集会」を開催 (於 自由民主党本部 大ホール)
・新型コロナウイルス感染予防措置として参加人数を 189 名に絞り、座席は間隔を空けて実施。
・国会議員 65 名、代理 (秘書) 50 名に出席していただく。
・熊本県、徳島県、埼玉県、秋田県の 4 名 (若手後継者、酪農婦人) が現在の酪農経営の窮状を訴える。
・輸入粗飼料や配合飼料、肥料の価格高騰に対する早急な支援を求める「緊急特別要請書」を満場一致で採択する。



▲ 自民党・酪政会会長、森英介衆議院議員

東北酪政会・臨時総会を開催。(於 ルポール麹町会議室)
・酪政連東北ブロック協議会からも 16 名が出席し、酪農経営への早急な支援を要請した。

9/9

政府は、畜産・酪農経営の急激なコスト増加に対して追加の緊急支援を検討すると発表。



乳牛産地情報

令和4年10月1日現在

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇐……やや弱含み ↓……弱含み

札幌支所 TEL 011-241-0765
釧路事務所 TEL 0154-52-1232
根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
帯広事務所 TEL 0155-37-6051
道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	15~25	↓	札幌管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で103.1%、累計で103.5%、苫小牧管内月計で95.6%、累計で96.0%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月下旬から1月分娩が中心となっております。9月管内乳牛市場はやや強含みに推移いたしました。上クラス牛はやや軟調に動いていましたが、中クラス牛が堅調に動いたためと考えます。庭先購買に関しましては横這いに推移すると見込まれます。育成牛に関しましては、上・中クラス牛ともに軟調に推移するものと見込まれます。上場頭数は少ないですが初妊牛・育成牛ともに良い牛が多い地域ですので、相場が落ち着いているこの時期に導入をお勧め致します。
	初妊牛	45~55	→	
	経産牛	20~30	⇐	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	22~32	→	根釧管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で95.9%、累計で96.4%、中標津管内月計で97.5%、累計で97.8%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月下旬から1月分娩腹が中心となります。荷動きはやや活発になってきていますが、スモール価格の下落・生産資材の高騰も影響し、庭先・市場ともに弱含みとなっております。中クラス以上の初妊牛も先月に比べ導入しやすい価格帯と予測されます。和牛受精卵移植腹につきましては、F1腹・雌雄選別腹と異なり高止まりすると見込まれます。育成牛につきましては、道内で一定数の需要があるため、価格は横這いで推移するものと見込まれます。
	初妊牛	45~55	↓	
	経産牛	28~38	⇐	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	20~30	↓	帯広管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で98.6%、累計で98.9%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月下旬から1月分娩が中心となっております。9月管内乳牛市場は弱含みに推移したことを受け、庭先購買に関しましては、やや弱含みで推移すると見込まれます。道内大型牧場も導入を開始したため、今後相場も上がってくると予想されますので、相場が落ち着いているこの時期での導入をお勧め致します。育成牛に関しましては、道内初生牛価格が軟調に推移していることを受け、庭先においても弱含みに推移するものと見込まれます。
	初妊牛	48~58	⇐	
	経産牛	23~33	⇐	
道北管内	育成牛(10-12月令)	22~32	→	道北管内の9月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で99.2%、累計で99.3%、北見管内月計で97.7%、累計で97.9%の実績となっております。10月の初妊牛動向といたしまして、12月下旬から1月中旬分娩腹が中心となります。初妊牛において、9月管内乳牛市場ではF1腹と雌雄選別腹の相場価格が縮まってきております。初生牛価格の下落・生産資材の高騰も影響し、購買による更新需要が低下している傾向があるので、9月市場相場はやや弱含みとなりました。庭先購買における価格状況もやや弱含みになると見込まれます。資源状況といたしましては、F1腹が増加傾向にあると見込まれます。
	初妊牛	42~52	⇐	
	経産牛	25~35	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	22~32	→	道内の9月中旬までの生乳生産量前年比は98.0%、累計で98.3%の実績となっております。道内では2番草・デントコーンの収穫がほぼ終了となっております。10月の初妊牛動向といたしましては、12月腹以降の冬分娩が中心となります。生産資材高騰の他、初生牛価格の下落が更なる導入意欲減少を招いている状況であり、相場は弱含みで推移すると見込まれます。大きな相場の変動は無いものと見込まれ、道内では放牧シーズンも終わり年内に販売する初妊牛も豊富に出てくる時期になりますので、導入計画をお持ちの方は購買をぜひご検討ください。弊会と致しましては庭先選畜購買を中心にご希望に合った搾乳用素牛を供給していきますので、お早めのご注文宜しくお願い致します。
	初妊牛	45~55	⇐	
	経産牛	25~35	→	

今月の表紙

今月の表紙は「第12回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「はじめまして」(北海道 荻野和美氏 撮影)です。



編集後記

- 朝晩はだいぶ涼しく感じられるようになりました。日毎に寒くなりますが、体調管理に気をつけながらも深まる秋の景色を満喫しましょう。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和4年10月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 10月号 No.685

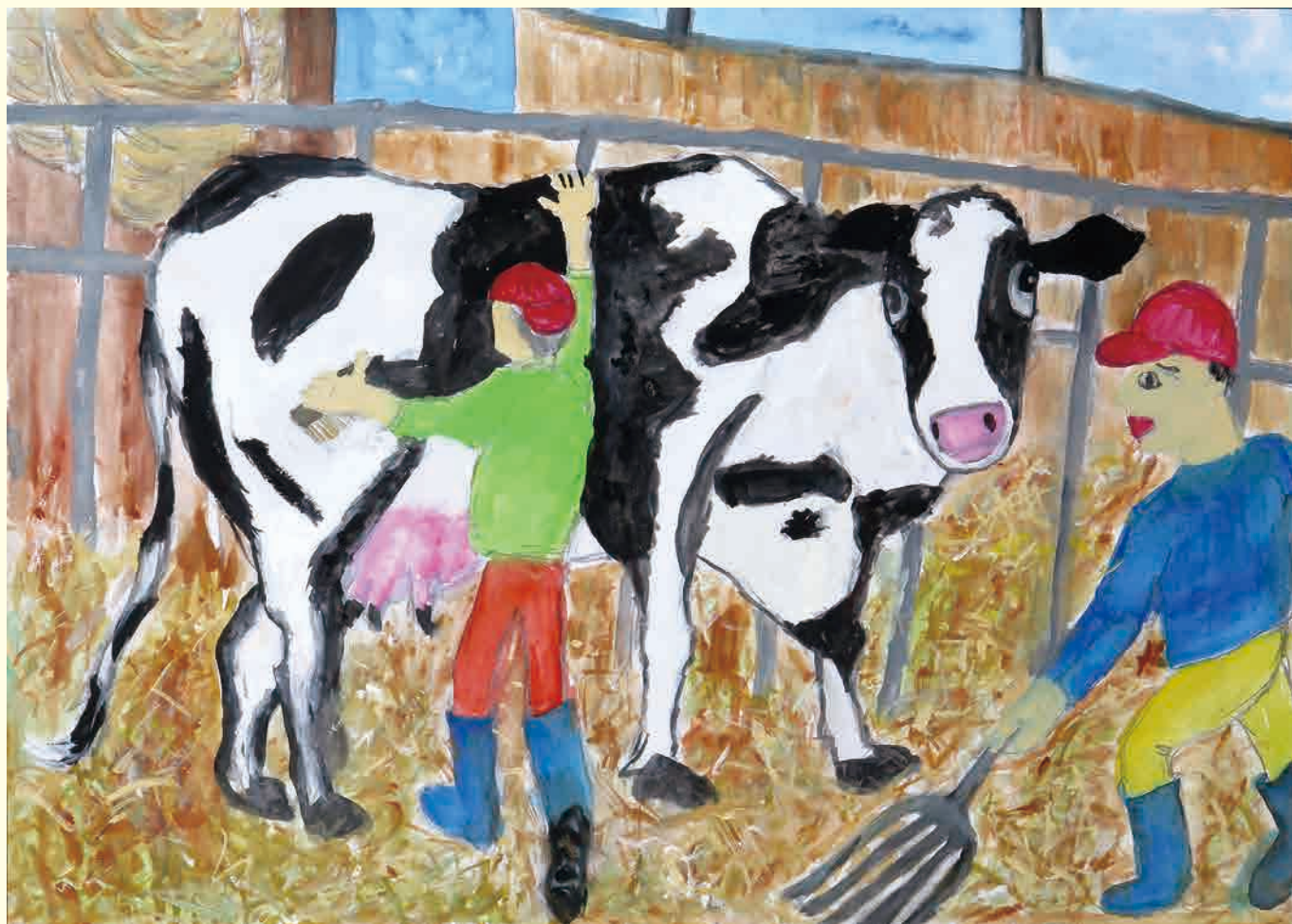
- 編集・発行人 工藤文彦
- 発行 全国酪農農業協同組合連合会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー

入賞作品紹介



もうすぐ赤ちゃん産まれるよ(気持ちいいなあ)

寄居町立用土小学校 4年(関甲信) 羽鳥 隆成

今月の入賞作品は…

寄居町立用土小学校 4年 (関甲信) の羽鳥隆成さんの作品です。

お産間近の牛さんの世話をする様子を、温かい眼差しで捉えた作品。ブラシをかけられて気持ちよさそうな牛さんの表情がよく描かれています。藁の描写も、丁寧に何層にも色を重ね仕上げていて完成度が高い作品です。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第48回らくのうこどもギャラリー」で全国205点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議